

心理力学における基本法則の探求

*Dr. キッチュ

近年、超常現象、超心理学的現象等、これまで異端の分野といわれた領域にも、科学的手法のメスが差し込まれつつある。

しかし、基本原理を十分考察しないままに、このような未開の分野に足を踏み入れることは、磁石を持たずに大海原に船を出す無謀な行為そのものである。

ここで、このような分野を「心理力学」と仮称し、そこに存在する基本原理について考察したので報告する。

基本的仮定

超心理現象を発生させるバックボーンとなる存在を認める事により、心理力学の体系は形作られる。これらの存在は、通常の物理手段では計測する事が困難であるが、そもそもが物理空間と異質な存在であるため、これを物質的現象に射影することが困難である。

必要となる概念

一般的に、超心理現象の探求は、なにやらオカルトや興味本意に走りがちである。しかし、超心理現象も現象の一部である以上、何らかの法則があるはずである。この法則は、一般的な物理法則を見慣れた目からは奇異に映るかもしれないが、確固たるルールという点において、物理法則に比類すべきものと認識する。

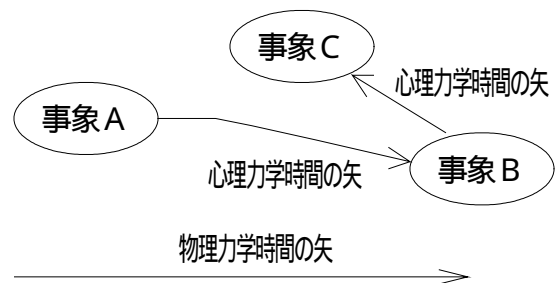
1)時系列の概念

いわゆる「因果」とよばれる概念である。

「前世の因縁」や、「因果応報」とよばれ、「たたり」や「呪い」といった心理概念には、時系列の順序がある。この「因果律」は、いわゆる「物理時間」によるものではなく、「原因」の観測する「結果」の時制で考えるべきであろう。すなわち、「現在から過去を考える」という行為は、心理力学においては、「考える対象である過去」は、現在の「考える原因である所の現在」に対してあくまでも

*超越科学研究所・ワークスキッチュ
マッドサイエンス学会正会員
Laboratory of Hyper-Science
Yamanashi JAPAN

未来であると定義する。



物理的には、事象はA C Bの順序で進行するが、心理力学では時間の矢は、現象を考察する事象の時制に依存する。従って、事象Aにおける未来に事象Bを認識し、事象Bでは、事象Cを、未来時制と認識する。両方の認識方法においても、順序という概念は存在する。

fig.1 心理力学的時間の概念

2)心理的空間の概念

心理力学においても、通常物理の「場」に相当する概念がある。これは、いわゆる「界」というものであろう。

神社や仏閣、教会などに足を踏み入ると、心理感度の高い人は、そこが何がしの「力場」に満ちた空間であると感じることが多い。

この「力場」は、空間的に固定されており、物理空間の中に、コンパクトな多様体として埋め込むことができる。

卑近な例では、人間の精神体が当てはまる。この精神体は、各々個人の肉体に束縛されており、有限の体積を持ち得ている。



物体に束縛されている「界」



生体に束縛されている「界」

fig.2 心理力学における「界」の概念

このように考察してみると、心理力学の概念には、一般物理とは少し形式が違うが、「距離空間（ノルム空間）」が適用できるだろう。

この距離空間である事が理解されると、この力学形式を、色々な幾何学をもって説明することが可能になってくる。さらに、その結果は、物理法則と同様に、仮定と推察が可能となってくるはずである。

心理力学の探索法

心理世界を探るプローブにふさわしいのは、ユング言うところの「シンクロニシティ」、あるいは「長田の法則()」といった手法である。

これらの手法の奥義とは、「心理世界の現象は、全ての心理体に同次元的に働きかける」という経験的事実をもとにしたものである。ユングの概念は、それが「空間的に同時」であり、長田の場合は「時間的に同時」であることを主張している。

これらのプローブをもって、心理世界を考察すると、色々と興味深い結果がえられれる。

すなわち、各種宗教の教義に、心理世界が物理世界の双対世界という考え方が数多く現れているという事実である。

曰く、「物理世界は心理世界の陰である」とか、「色即是空・空即是色」であるとか、「天国と地獄」というように、この心理世界は、一様で曖昧といったものではなく、何らかの構造があるという主張である。

この他にも、「靈魂不滅」や、「善霊と悪霊」といった概念、「神の存在」という概念等が共通である。

今までの一般物理では、これらの問題は、「偶然の一致」という一言で片づけられていた。

しかし、心理力学の立場は違う。心理力学では、「偶然」という概念ではなく、「何らかの原因」があって、「然るべき結論」が得られたと考え、その「原因」を追求するのである。

そもそも、「偶然である」ことを証明する事もせず、結論してしまっても良いものか、私には判断しかなる。

このように、初めから否定する立場でしかない一般物理の研究手法は、この点において心理力学的なアプローチと質を異にするものであり、今まで実質的な成果が上がっていないのは当然と言えよう。

()長田の法則

「およそ全ての発明・発見は、時間により制御されている」という主張。例えば、仮にエジソンが事故で亡くなっても、あの時代には、他の誰かが、必ず似たような発明をするはずと彼は言う。

この例は、ノーベル賞級の発見が、互いに独立な研究所で同時に発表されることが多い点にも現れている。

長田は、著者の学生時代の友人である。

また、例として、物理世界と双対の心理世界の概念を図示してみよう。

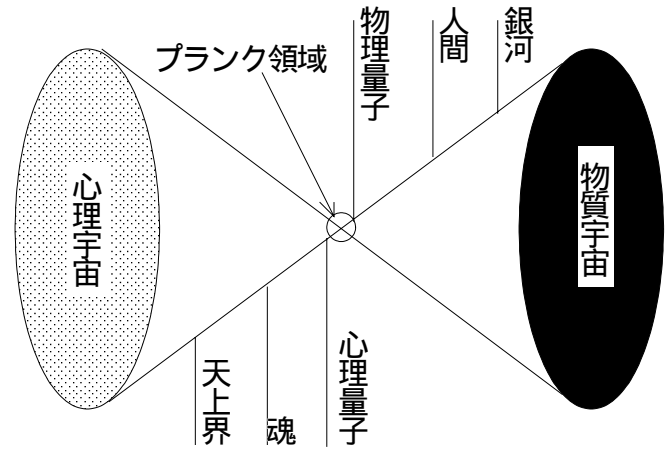


fig.3 心理世界と物質世界

この図は、物理世界の世界像を、究極の基本粒子まで描いた図を、中心で対象に写像して、心理世界としたものである。

心理世界にも構造があり、物理世界の影であるとする、その基本粒子は、この物質世界を形成している基本粒子に限りなく近づく。現代素粒子学者には、「究極粒子は観測者の心理により影響されうる」という主張をするものもいるが、あながち間違いとは言えないであろう。

物理世界の母胎となるものは「真空」と考えられてるが、心理世界もまた「空」が母胎であるはずだ。これらは同根の現象であり、互いに不可分であるはずである。

まとめ

心理力学という、一般的に受け入れ難い分野の探求法についての概要を述べてきた。心理力学においては、「距離空間」の概念が適用できる事、心理的共鳴現象をプローブ(探針)に利用できる事、「否定的」な消去法でなく、「肯定的」な漸化法が研究手法としてふさわしい事などが明らかになった。

この論文が、暗黒である超心理研究への一本のろうそくとなる事を祈る。

参考文献

宇宙エネルギーの超革命
199X年地球大破局
般若心経
旧約聖書

深野一幸
深野一幸